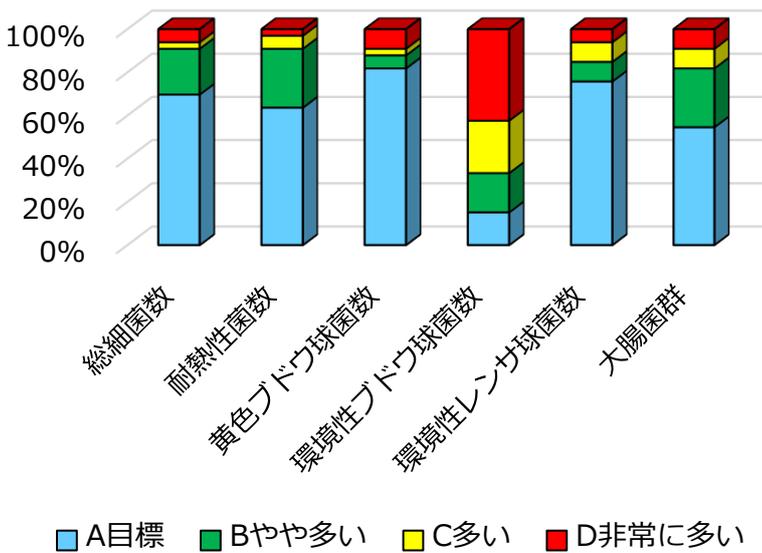


後期バルク乳検査の成績について

令和7年9～11月に実施した管内酪農家30戸(33検体)の後期バルク乳検査(酪農生産性向上対策事業)の集計結果をお知らせします。

令和7年前期と比較して、黄色ブドウ球菌、環境性レンサ球菌のB, C, D判定農家の割合が減少しました。しかし、生菌数、耐熱性菌、環境性ブドウ球菌、大腸菌群のB, C, D判定農家の割合が増加しました。無乳性レンサ球菌、BVDウイルス、マイコプラズマは全検体で検出されませんでした。採材等にご協力いただきありがとうございました。来年度もバルク乳検査にご協力よろしくお願いたします。

各細菌数の判定別農家の割合



R7年前期との比較(単位:%)*

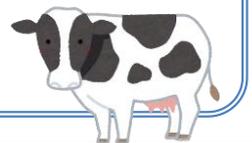
項目	R7後期	R7前期
生菌数	30	12
耐熱性菌	36	32
黄色ブドウ球菌	18	29
環境性ブドウ球菌	85	76
環境性レンサ球菌	24	26
大腸菌群	46	41

※BCD判定農家の割合

上記の菌種以外にコリネバクテリウム、酵母様真菌、シュードモナス等も分離された農場が約半数ありました。乳頭清拭等に注意するほか、牛床の環境をできるだけ清潔な状態に保つことが大切です。

個体乳の検査による感染牛の特定や搾乳立会による搾乳手順等の検討のご希望がありましたら家畜保健衛生所までお問合せください。

TEL:0263-47-3223



引き続き、飼養衛生管理基準の遵守をお願いします。

(問合せ先)
 保健衛生課
 神戸(課長)、伊藤、瀧澤(担当)